

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4078800101
法人名	社会福祉法人 やまと医正会
事業所名	グループホーム敬和苑
所在地 (電話番号)	福岡県山門郡大和町栄220番地2 (電 話) 0944-76-5555
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 11月 11日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 1日			
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	15 人	常勤 2人, 非常勤	13人, 常勤換算	14人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,000 円		その他の経費	有
敷 金	有(円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円) 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,480 円			

(4)利用者の概要(平成 19年 10月 1日現在)

利用者人数		18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1		5 名		要介護2	6 名	
要介護3		0 名		要介護4	4 名	
要介護5		3 名		要支援2	0 名	
年齢	平均	85 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	千蔵医院、内田医院、藤野医院、二宮歯科クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホーム敬和苑の敷地内に平成14年12月に開催されたグループホームである。同敷地内にデイサービス、ヘルパーステーション、ケアプランサービス、ケアハウスが併設されている。他にもグループホームや有料老人ホーム等多数経営される。グループホームの造りは柔らかな日差しが差し込み、ウッドデッキの活用も充分なされ、ユニット間同士の利用者の往来もあり、穏やかで生きいきとした生活ぶりが伺われ、職員の優しい言葉掛けが、利用者の表情に反映している。また家族の面会時も自然な形で、利用者や職員の中に入り、レクレーションに参加するなど、和やかな雰囲気を見ることができ、家族の喜ぶ声を聞くことができる。地域住民として地域に積極的に関わろうとする意気込みや必要があれば改善しようとする努力が感じられ、今後大いに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された玄関周りや建物周囲に花壇を作り、季節感を味わえるような取り組みがなされ、家庭的で親しみやすいホームになっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に外部評価を受ける意味を説明されているが、自己評価においては主任副主任の参加のみで、職員の参加は行なわれておらず、自己評価を活した具体的改善にはいたっていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	柳川市の福祉課、老人会長、地域区長、民生委員や利用者の家族の方に参加して頂き、利用者の概要報告、今年度の行事・資料配布・アルバムを提示したり、現在取り組んでいる内容について報告を行なっている。また認知症の質問があった時は資料を配布したり、多様な質問にも対応を行って、前向きに取り組みを行なっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	9月より毎月1回写真入で広報紙「グループホーム敬和苑」を家族に送り、現状報告を行っている。その際担当者が個々の利用者ごとに、それぞれ近況報告を添えている。また面会に来られた時に、意見を聞いたりして、改善点があれば即対応を行なっている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人クラブに参加したり、民生委員からカラオケの誘いを受けたり、地域の色々なレクレーションに参加したり、グリーンキャンペンには利用者も一緒に参加するなど交流を行っている。またホームでの夏祭り等の年間行事には地元の人との交流を図っている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念を掲げているが、地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていく、具体的なイメージの理念が掲げられてない。	○	法人全体の理念とは別に、事業所独自の地域性が生かした理念を作り上げる事が望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日2回理念の唱和を行い共有の確認を行っている。日々利用者に関わる際、話し合いや確認を行いながら仕事に取り組んでいる。理念に取り組む姿勢は全員持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会に月1回参加したり、レクリエーションなどに参加している。また地域のグリーンキャンペーン参加には一部の利用者と一緒朝からゴミ拾いを行ったり、地元の人々と交流する機会を持つように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は職員で取り組み、改善に向けて具体案の検討やサービスの質の向上に努めているが、職員全体で自己評価の取り組みがなされていない。	○	全職員で話し合いながら自己評価に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	柳川市の福祉課、老人会長、地域の区長、民生委員や利用者の家族の方に参加して頂き、利用者の概要・報告・今年度の行事・資料配布・アルバムを提示したり、現在取り組んでいる内容について報告を行なっている。また認知症の質問があった時は資料を配布したりして、多様な質問にも対応を行なっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいているが、市町村との連携はおこなわれていない。	○	運営推進会議の時等に、行き来する機会を作っていただくように提案し、連携を図っていくことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見人制度を利用している人はない為学ぶ機会がなく、権利擁護や成年後見人制度の研修は行なわれてない。	○	必要な時に情報提供や支援ができるように、この制度について学習することが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会にこられる家族には、利用者の生活ぶりを報告をしており、滅多にこられない家族もいるので、9月より毎月1回広報紙を発行し、活動報告を行なっている。職員の異動等については、広報誌に職員の写真を載せて報告を行なっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置したり、家族の面会時に話しやすい雰囲気作りをして、意見や苦情、不満を表せるように努めているが、現在までに意見や苦情はない。苦情相談窓口担当者及び苦情申し立先・相談先として公的窓口の紹介を電話番号とともに明記している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は、法人本部で決められられ、突然の異動もあるため、十分な引継ぎができず、利用者、家族の不安がある。	○	グループホームの意義を理解し、異動は必要最小限に抑え、利用者と職員との馴染みの関係を重視するように取り組んでほしい。異動の必要がある時は、利用者の気持ちを汲み取り、家族の信頼関係を築くためにも突然な異動ではなく、法人内で職員の交流を図りながら自然な感じでの異動を行なったり、引継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮することが望ましい。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用の条件としては夜勤可能な人とあげているが、性別、年齢等を理由に採用対象から除外していることはない。また働く職員は福利厚生に加入し、休みの希望も取り入れられている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は定期的に研修に参加し、毎月15日は勉強会で人権問題の研究発表会等を行なっている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修会を行なっており、法人外の研修にも参加を行い、その後に勉強会も行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行なわれてない。	○	同業者との交流の機会を持ち、ネットワーク作りや、交換研修、スタッフ研修や相互訪問の活動を通じて、サービスの質の向上に努めることが望ましい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人本部で決められる為、事業所では前日か当日に利用者の入居を聞かされる。	○	法人本部で入居を決めるのではなく、地域密着型サービスの特徴をいかし、事業所独自で職員が面接を行ったり、利用者家族の見学、体験利用や遊びに来て頂くなかで徐々に馴染みながら利用に移っていく事が望ましい。
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩という考えを共有しており、普段から台所仕事や漬物を漬けたり縫い物、編み物、畑づくり等教えて貰う場面が多くみられる。利用者の得意分野を発揮して頂き、感謝をするという気持ちを築き、お互いが協働しながら和やかな生活できるように場面づくりや声かけを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	調査時間中に行われていたレクリエーションの中で、本人の趣味や特技を、職員が把握できている事は分かったが、アセスメントシートに過去の歴史や、趣味や特技等が記載されていない為、本人の暮らし方の希望や意向の聴取が困難な場合、本人本位に行われているかどうか確認できない。	○	利用者の表情や、調査中に面会に来られた家族の話から、本人が楽しく暮らしているであろう事は理解できたが、アセスメントシートに生活歴や、趣味、特技等の記載がないため、本人の希望、意向の把握が困難な場合に、本人本位に検討されているかどうか分かり難い。アセスメントシートへの記載が求められる。
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの担当者から課題を書いてもらい、その後本人、担当者、計画作成担当者で会議を行い、家族からは面会時や電話で話し合い、介護計画を立てている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月の目標を立て、6か月後にはモニタリング、評価を行い見直しをしている。変化があった場合は、その都度、話し合いを行い介護計画の変更を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他事業所がグループホームに代わって多機能性を発揮しているが、ホーム独自に多機能的な支援を行っていない。	○	地域密着型の事業所として、独自の柔軟な対応が出来る体制作りが望まれる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される方には、今までのかかりつけ医への受診を、職員が同行し支援を行っている。通院が困難な利用者は、家族の同意のもと、法人の協力医への変更を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに3名の方のターミナルを行った。重度化した場合主治医より、家族、ホームに話があり、三者で繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけは優しく、穏やかでプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は行っていない。記録等の個人情報は事務所内に管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員同士が常に協力しあい、利用者の希望やペースを大切に支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの希望や力を活かしながら、食事作り、下膳、食器洗い等、利用者と職員が一緒に行っている。一つのユニットでは、一人の利用者が自分の仕事として、テキパキと下膳、食器洗いを行い、職員はそれとなく声かけ、見守りを行っていた。食事は同じものを、利用者、職員全員で会話を交わしながら楽しくしていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼は週3回13時30分から15時30分まで、夜は月曜日から土曜日までの18時30分から20時まで、希望に応じて入浴支援をしている。現在18名中8名が夜間入浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの特技や趣味を活かしながら、料理、散歩、雑巾縫い、畑作り、手芸、カラオケ等をしている。調査日当日も、利用者、職員の歌にあわせ、利用者が楽しそうに踊られていた。またおやつの中には95歳の利用者の方が、同じ利用者の要望でお話を語り、皆さんから拍手を得られていた。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等希望に応じ対応している。また花見、バスハイク、誕生月の外食等、外へ出かける機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	7時から20時頃までは気配りをする事で、施錠を行っていない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体での訓練と、ホームのみの訓練を行っている。ホームのみの訓練は夜間を想定して行っている。緊急時の連絡網は事務所に掲示され、職員は把握している。		
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はホームの職員が当番を作り考え、法人の栄養士がカロリー計算をしている。食事摂取量は全員毎食記録されている。むやみに副食や果物を刻みにせず、本人の状態や、希望に応じた形で提供されている。水分は観察の必要な利用者にはプランに位置づけ記録をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファが置かれ、ウッドデッキにはベンチが置かれており自由にくつろげるようになっている。それぞれの共有空間は明るく清潔感がある。玄関には柿が生けられており、季節を感じることができる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットはホームの備品であるが布団は、自分自身のものが持ち込まれている。それぞれの居室には、好みの品々が置かれ、また冷蔵庫やタンスを持ち込まれている利用者もあり、居心地よく過ごせるように配慮されている。		